

adaptec[®]

Adaptec RAID Controller
Command Line Utility

ユーザーズガイド

著作権

© 2010 Adaptec, Inc. All rights reserved. この文書は、たとえその一部であっても事前に Adaptec, Inc., 691 South Milpitas Blvd., Milpitas CA 95035 から書面による許可を得た場合を除き、電子的、機械的、複写機、記録あるいはその他いかなる手段、いかなる形式によっても転送、複製、検索システムに登録してはなりません。

商標

Adaptec、Adaptec Storage Manager、MaxIQ、Adaptec のロゴは Adaptec, Inc. の登録商標で数ヶ国で登録されています。Microsoft および Windows は Microsoft 社の登録商標であり、アメリカその他の諸国でライセンスの下に使用されています。

Red Hat は RedH Hat Inc. のトレードマークでアメリカその他の諸国でライセンスの下に使用されています。

その他の商標は各権利所有者の所有によるものです。

変更

本文書の資料は単なる情報として提供されるものであり、予告なく変更される可能性があります。本書の制作に際し正確さを期するために万全の注意を払ってはおりますが、本書中の誤記や情報の抜け、あるいは情報の使用に起因する結果に関して Adaptec 社はいかなる責任も負いません。

Adaptec 社は、ユーザに対する事前の約束及び告知無しに製品のデザインを変更する権利を留保します。

禁止事項

本書のどの部分も、著作権者からの事前の書面による許可なくして、電子的、機械的を問わず、複写や記録などいかなる方法やいかなる形による転送や複製、検索システムへの登録を行う事は法律で禁止されています。

アダプテックテクニカルサポート

アダプテックの製品は、簡単にインストールして使えるように特別に開発されました。画面に表示される指示やヘルプ、マニュアルの制作にあたっては、わかり易く、使い易いものとなるよう十分配慮しております。これ以上の情報が必要な場合は、アダプテック社のテクニカルサポートへご連絡ください。

- 電話テクニカルサポート：0066-3313-2601

(受付時間 平日午前9時-12時、午後1時-6時 土、日、祭、祝日を除く)

- アダプテックテクニカルサポートへご連絡される時は、必ず以下の情報をご用意ください。
- アダプテックハードウェア製品のモデル及び TSID 番号

本製品に下図のような、製品番号、シリアル番号、TSID（テクニカルサポート ID 番号）が印刷されているシールが同梱されています。一枚を保証書もしくは、クイックインストールガイドの貼り付け欄に貼付し、テクニカルサポートへのお問合せの際に必ずご連絡ください。



- アダプテックソフトウェア製品の名前とバージョン番号
- お使いになっている OS の種類とバージョン番号
- アダプテック製品を購入された販売店名

アダプテックジャパン インターネットホームページ

<http://www.adapteco.jp>

ユーザ登録

<http://www.adapteco.jp/regist>

ソフトウェア使用許諾契約書

次の契約条件を注意してお読みください。本ソフトウェアを使用することにより、お客様は、アダプテック、及び本製品にバンドルされているソフトウェアの使用許諾者が定める契約条件に同意したものとします。

お客様は、本製品に付属のソフトウェアを使用することにより、インストール中に同意した、当該ソフトウェアのライセンス許可者が定める契約条件の適用を受けることになります。お客様が、当該ソフトウェアに適用される契約条件に同意しない場合、未使用の製品を返送することで、全代金の返金を受けることができます。

お客様は、アダプテックが提供する本ソフトウェア（以下「ソフトウェア」という）及び関連書類の使用許諾を得るために、以下の条件に同意するものとします。

- 使用許諾内容：本契約書は、下記の使用許諾をお客様に与えるものとします。
 - 単一コンピュータシステムでの本ソフトウェアの使用、または、
 - バックアップを唯一の目的として、機械読み取りの可能な形式で「ソフトウェア」のコピーを作成すること。但し、Adapttecの著作権表示と所有財産権に関する記述を複製すること。「ソフトウェア」から、著作権表示を削除することは許可されません。「ソフトウェア」は、主たる使用者の、家庭、ラップトップ、その他2次的なコンピュータで使用される場合がありますが、そのような場合にはその機能を使用するためにさらに「ソフトウェア」のコピーを作成することができます。この許諾書で用いられているように、「ソフトウェア」は、RAMに読み込まれたり、ハードディスクやその他の半永久的な記憶機器にインストールされて使用されます。ソフトウェアは、いずれの場合でも一台でしか使用できません。お客様は、「ソフトウェア」の使用にあたっては、著作権法を含む全ての法を遵守し、コンテンツの所有者から必要な使用許諾や、許可なしに、ソフトウェアをコピー、転送、実行または配布しないことに同意します。
- 規制：他人に「ソフトウェア」のコピーを分配したり、ネットワーク内の1つのコンピュータから他へ「ソフトウェア」を電送してはならないものとします。いかなる形式においてもインターネット上に「ソフトウェア」、またはその一部を掲載したり、インターネット上で使用できるようにはなりません。タイム・シェアリング・アプリケーションなど、コンピュータ・サービス関連のビジネスで、「ソフトウェア」を使用してはならないものとします。「ソフトウェア」の各部品に関して、追加のクラスやインターフェース、サブパッケージを作らないものとします。「ソフトウェア」は営業秘密を含み、同秘密を保護するために、「ソフトウェア」を逆コンパイル、解析、逆アセンブル、その他人間が認知できるような状態に変更してはなりません。さらに、「ソフトウェア」やその部品から派生した製品を、修正、改造、翻訳、賃貸、リース、ローン、利益のための再販売、分配、ネットワーク、あるいは創出してはならないものとします。
- 「ソフトウェア」の所有権：お客様は「ソフトウェア」が記録あるいは固定された媒体を所有しますが、オリジナルの媒体に記録された「ソフトウェア」、並びにその後作られた「ソフトウェア」のコピーに対する権利と所有権は、オリジナルやコピーのフォームや媒体に拘らず、Adapttecまたはその使用許諾者が保持します。本許諾契約書は「ソフトウェア」及びそのコピーの販売契約ではありません。
- 機密性：お客様は、「ソフトウェア」の機密性を保持し、Adapttecの事前の文書による承認なしに、「ソフトウェア」を第三者に公開しないことに同意します。更に、使用許諾を得ていない第三者の「ソフトウェア」に対するアクセスを阻止するために、あらゆる適切な手段を講じることに同意します。
- 期間：本許諾は、それ以前に終結、解約されない限り、2045年1月1日まで有効です。お客様は「ソフトウェア」（関連文書を含む）及び全コピーまたは変更内容を破壊することにより、いつでも本契約書を終結させることができます。Adapttecは、お客様が本契約書の条件や条項を遵守しない場合、直ちに使用許諾を解約する権利を有します。お客様による終結も含めて、本契約書が終結された場合、お客様は「ソフトウェア」（関連文書を含む）及び全コピーまたは変更内容を破壊しなければなりません。
- データベースに関する特記事項：「ソフトウェア」にデータベースが含まれる場合、「ソフトウェア」を使用してディスクを作成するときのみ当該データベースの使用を許諾されることに同意します。第4項の規定に従い、データベース及びデータベース内の全データの機密を保持することに同意します。本契約書は、当該データベース及びデータを配布または開示する権利を与えるものではありません。
- 限定保証：Adapttec および使用許諾者は、お客様への引渡日から30日間、「ソフトウェア」が記憶された媒体が、正常な使用及び作動条件において材質または製作上の欠陥を生じない事に限って保証します。Adapttec および使用許諾者は、「ソフトウェア」やその関連文書を使用した成果や結果を保証しません。上述は保証違反に対する Adapttec および使用許可者の唯一の救済手段です。上述の限定保証以外に、Adapttec および使用許諾者は、第三者の権利や市場適性、あるいは特定目的への適性に関して、明確にも黙示的にも、それに限定されることなく、いかなる保証を行なうものではありません。ある特定の管轄地においては、黙示的保証の存続期間についての限定を許容しない場合があります。そのような場合には、上記の限定あるいは保証の排除はお客様に適用にならない場合があります。本保証書は、本製品をご購入いただいたお客様に特定の法的権利を認めるものです。
- Adapttec および使用許可者の負う全責任と、本保証の違反に対してお客様のみが受けることができる救済措置は次の通りです。
 - 上記の限定保証条件に合わず、Adapttec に返送された媒体の交換、あるいは
 - Adapttec またはその販売代理店が、材質または製作上の欠陥のない新たな媒体を供給できない場合、お客様は「ソフトウェア」を返送することにより本契約を終了し、代金の返金を受けることができます。
 上述のみが、Adapttec および使用許可者の負う全責任と、本保証の違反に対してお客様のみが受けることができる救済措置となります。
- 損害責任の制限：Adapttec は、たとえ第三者が Adapttec に損害の可能性や苦情を報告していたとしても、お客様が被った逸失利益、金銭的損害、あるいは他の特別損害、付随的損害、間接損害、派生的損害、結果的損害に対していかなる責任を負うものではありません。ある特定の管轄地においては、上記の限定責任および付随的あるいは結果的損害の排除を許容しない場合があります。そのような場合には、上記の限定あるいは保証の排除はお客様に適用にならない場合があります。
- 輸出：アメリカ合衆国並びにそれ以外の国家の法律及び規制により、「ソフトウェア」の輸出及び再輸出が規制されていることを、お客様は認識しなければなりません。お客様は、アメリカ合衆国並びにそれ以外の国の法律に違反する方法で、「ソフトウェア」あるいは関連書類を輸出または再輸出しないことに同意します。
- アメリカ合衆国政府による規制：「ソフトウェア」は、次の規制事項に従います。「ソフトウェア」が GSA 契約の条件に従って取得された場合、その使用、複製、または公開に関して、当該 ADP スケジュール契約に定められた規制の適用を受けるものとします。「ソフトウェア」が同国防総省または民間機関が定める契約条件に従って取得された場合、その使用、複製、または公開に際して、連邦調達規則の 48C.F.R.12.212 及び国防総省 FAR 追加条項 48 C.F.R.227.7202-1 の条項に則って定められた本契約の条件に従うこととします。
- 総則：お客様、本契約書を熟読し、理解したこと、更に「ソフトウェア」を使用することにより、本書の条件と条項が被許可者を拘束することに同意することを承諾します。更に、お客様は、本契約書が Adapttec とお客様の間の完全かつ唯一の同意文書であり、本契約書の主題に関してこれまでに Adapttec とお客様の間で交わされた提案や同意書（口頭か文書かを問わず）並びに他の方法による情報交換に取って替わるものであることに同意します。追加または修正された本契約書の条項や他の条件は、Adapttec の役員がその承諾書（本契約書条件の放棄を含む）に署名しない限り、Adapttec に対して執行不能とします。お客様は、法律に準拠し、責任を持って本ソフトウェアを使用する責務をすべて負うものとします。本契約書はカリフォルニア州法によって規制されます。但し、著作権に関しては連邦法規が適用されます。本契約書は、カリフォルニア州法ミルピタス市において、両当事者によって締結されたものとみなされます。本契約書のいずれかの条項が、ある裁判管轄地において履行不可とされた場合、同条項は本契約書より分離するとみなされ、本書の他の条項には何の影響も及ばないものとします。本契約書において特に記載されていない「ソフトウェア」に対する権利は全て Adapttec が保有します。

本契約書に関する質問があれば、次の宛先までお問い合わせ下さい：

Adapttec, Inc.
Legal Department
691 South Milpitas Boulevard
Milpitas, California 95035.

目次

コマンドラインユーティリティのスタートアップ

コマンドラインユーティリティのインストール	8
Windows へのインストール	8
Linux へのインストール	8
OpenServer と UnixWare にインストール	8
Sun Solaris へのインストール	9
FreeBSD へのインストール	9
VMware へのインストール	10
コマンドラインユーティリティの起動	10

コマンドラインユーティリティの使用

ARCCONF コマンド	12
arconf atpassword	12
arconf copyback	12
arconf create	13
arconf datascrub	14
arconf delete	15
arconf driverupdate	15
arconf failover	15
arconf getconfig	16
arconf getlogs	17
arconf getsmartstats	17
arconf getstatus	18
arconf getversion	18
arconf identify	19
arconf imageupdate	19
arconf key	20
arconf modify	20
arconf rescan	21
arconf resetstatisticscounters	21
arconf romupdate	21

arconf savesupportarchive	22
arconf setalarm.....	22
arconf setcache	23
arconf setconfig.....	23
arconf setmaxiqcache	24
arconf setname.....	25
arconf setncq	25
arconf setperform	25
arconf setpower	26
arconf setpriority.....	27
arconf setstate.....	27
arconf setstatsdatacollection	28
arconf task	28

コマンドラインユーティリティのスタートアップ

1

この章には ...

コマンドラインユーティリティのインストール	8
コマンドラインユーティリティの起動	10

この章では、お使いの Adaptec RAID コントローラが、どのように ARCCONF コマンドラインユーティリティの使用をサポートしているかを説明します。

このユーティリティを使用して、以下のことが可能です。

- 論理ドライブを作成および削除
- 構成の設定の表示及び変更
- コンピュータの設定を別のコンピュータにコピー
- 故障した物理デバイスの復旧と、影響のあった論理ドライブの再構築
- コントローラに新しい BIOS とファームウェアをフラッシュ
- コントローラがディスクドライブの削除と接続をチェックできるようにする
- Windows のドライバを自動的にアップデート
- ステータスとコントローラのイベントログへのアクセスを提供
- 障害を分離し、原因を確定する

コマンドラインユーティリティのインストール

ARCCONF は、Adaptec RAID Controller インストール DVD で提供されるコマンドラインユーティリティです。ユーティリティは自動的に Adaptec Storage Manager と同じディレクトリにインストールされ、そこにある必要があります。

Windows へのインストール

ARCCONF を Windows システムにインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 コンピュータを起動します。
- 2 Windows が起動したら、Adaptec RAID Controller インストール DVD を挿入します。
インストール DVD のメインメニューが開きます。
- 3 **Install Adaptec Storage Manager** を選択します。
インストールウィザードが開きます。(もし開かなかった場合、**Browse the CD** を選択し、**autorun** をクリックします。)
- 4 画面上の指示に従ってインストールを行います。

Linux へのインストール

ARCCONF を Linux システムにインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 コンピュータを起動します。
- 2 Linux が起動したら、Adaptec RAID Controller インストール DVD を挿入します。
- 3 Adaptec RAID Controller インストール DVD をマウントします。
Red Hat—`mount /dev/cdrom /mnt/cdrom`
SuSE—`mount /dev/cdrom /media/cdrom`
- 4 `manager` ディレクトリに変更します。
Red Hat—`cd /mnt/cdrom/ASMCD/linux/manager`
SuSE—`cd /media/cdrom/ASMCD/linux/manager`
- 5 RPM パッケージを抽出して、インストールします。
`rpm --install ./StorMan*.rpm`
- 6 RAID Controller インストール DVD をアンマウントします。
Red Hat—`umount /mnt/cdrom`
SuSE—`umount /media/cdrom`

OpenServer と UnixWare にインストール

ARCCONF を Open Server や UnixWare システムにインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 RAID Controller インストール DVD を挿入します。
- 2 RAID Controller インストール DVD をマウントします。
`mount -r -F cdfs /dev/cdrom/cdromdevicefile /mnt`

ここで、*cdromdevicefile* は、デバイスファイル名 (例 : DVD-ROM ブロックデバイスに、*c0b0t010*) です。実際のデバイスファイル名を決定するには、*/dev/cdrom* ディレクトリを見ます。

- 3 Adaptec Storage Manager をインストールするには、*pkgadd* を使用します。

```
pkgadd -d /mnt/ASMCD/unixware/manager/RaidMan.ds (UnixWare の場合)
```

```
pkgadd -d /mnt/ASMCD/openserv6/manager/RaidMan.ds (OpenServer 6 の場合)
```

- 4 画面上の指示に従ってインストールを行います。
- 5 RAID Controller インストール DVD をアンマウントします。

```
umount /mnt
```

Sun Solaris へのインストール

ARCCONF を Solaris システムにインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 RAID Controller インストール DVD を挿入します。

DVD は自動的にマウントされます。(されない場合は、以下のようなコマンドを使用して、マニュアルで DVD をマウントします。詳細については、オペレーティングシステムの説明書を参照してください。)

```
mount -F hsfs -o ro/dev/dsk/c1t0d0s2/mnt
```

- 2 Adaptec Storage Manager をインストールします。

```
pkgadd -d/<mount point>/ASMCD/solaris_x86/manager/StorMan.pkg
```

- 3 画面上の指示に従ってインストールを行います。
- 4 RAID Controller インストール DVD をイジェクトまたはアンマウントします。詳細については、オペレーティングシステムの説明書を参照してください。

FreeBSD へのインストール

ARCCONF を FreeBSDs システムにインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 Adaptec RAID Controller インストール DVD を挿入して下さい。
- 2 Adaptec RAID Controller インストール DVD をマウントして下さい。

```
mount /cdrom /mnt
```

メモ : DVD-ROM ドライブは、異なるデバイス名やパスの場合があります。

- 3 Adaptec Storage Manager をインストールします。

FreeBSD x86 (32 ビット用) では、

```
pkg_add /<mount point>/ASMCD/freebsd7/manager/StorMan-x86.pkg.tbz
```

FreeBSD amd64 (64 ビット用) では、

```
pkg_add /<mount point>/ASMCD/freebsd7_x86_64/manager/StorMan-amd64.pkg.tbz
```

ここで、*mount point* は、DVD-ROM のマウントポイントを示します。

メモ : インストール DVD には、FreeBSD 6 と FreeBSD 8 のパッケージも含まれます。

- 4 画面上の指示に従ってインストールを行います。
- 5 RAID Controller インストール DVD をアンマウントします。詳細については、オペレーティングシステムの説明書を参照してください。

VMware へのインストール

ARCCONF を VMWare システムにインストールするには、以下の手順に従います。

- 1 Adaptec RAID Controller インストール DVD を挿入して下さい。
- 2 Adaptec RAID Controller インストール DVD をマウントして下さい。

```
mount -r /dev/cdrom /mnt/cdrom
```
- 3 manager ディレクトリに変更します。
 ESX Server 3.5 では、 `cd /mnt/cdrom/ASMCD/linux/manager`
 ESX Server 4.0 では、 `cd /mnt/cdrom/ASMCD/linux_64/manager`
- 4 Adaptec Storage Manager RPM パッケージを抽出して、インストールします。

```
rpm --install --nodeps ./StorMan*.rpm
```

メモ: "Application can be started by typing /usr/StorMan/StorMan.sh" というメッセージは無視します。VMWare は Adaptec Storage Manager GUI はサポートしません。
- 5 /usr/StorMan ディレクトリを変更し、このコマンドを入力します。

```
chmod +x arccconf
```
- 6 RAID Controller インストール DVD をアンマウントします。詳細については、オペレーティングシステムの説明書を参照してください。

コマンドラインユーティリティの起動

ARCCONF を起動するには、以下のコマンドのいずれかを入力します。

- Windows—`<install_dir>/arccconf.exe`
- Linux—`/usr/<install_dir>/arccconf`
- UnixWare/OpenServer—`/opt/RaidMan/arccconf`
- Solaris—`/usr/StorMan/arccconf`
- FreeBSD—`<install_dir>/arccconf`
- VMWare—`/usr/StorMan/arccconf`

`install_dir` はユーティリティがインストールされているディレクトリ名を示します。

利用可能なコマンドを表示するには、プロンプトで `ARCCONF` と入力します。ユーティリティコマンドの機能については、[コマンドラインユーティリティの使用](#) に詳細があります。

コマンドラインユーティリティの使用

2

この章には ...

ARCCONF コマンド 12

本章では、コマンドラインユーティリティを対話形式やバッチモードで使用方法を説明します。対話モードでは、コマンドをプロンプトに入力します。バッチモードでは、スクリプトを作成し、適切なシェルでスクリプトを実行します。たとえば、

環境	バッチファイル	実行スクリプト
Windows	.bat	CMD.EXE
Linux/Unix	.sh	sh / bash

いずれのモードでも、コマンドが失敗した場合は、**Command failed** というエラーメッセージが表示されます。他に表示されるスクリプトメッセージは、**Command completed successfully** または、**Command aborted** です。

それぞれのコマンドの戻り値は同じです。

0x00: SUCCESS

0x01: FAILURE— 要求されたコマンドが失敗しました

0x02: ABORT— パラメータの確認に失敗したためコマンドは中止されました。

0x03: INVALID_ARGUMENTS— 引数が無効です。(COMMAND のヘルプを表示)

利用可能なコマンドは、次のページにアルファベット順に記載されています。コマンドリストにアクセスするには、ARCCONF と入力して、**Enter** を押します。

特定のコマンドのオンラインヘルプにアクセスするには、ARCCONF <command> と入力し、**Enter** を押します。

ARCCONF コマンド

以下の機能はコマンドラインから実行します。

ARCCONF コマンド			
atapassword	getlogs	rescan	setname
copyback	getsmartstats	resetstatisticscounters	setncq
create	getstatus	romupdate	setperform
datascrub	getversion	savesupportarchive	setpower
delete	identify	setalarm	setpriority
driverupdate	imageupdate	setcache	setstate
failover	key	setconfig	setstatsdatacollection
getconfig	modify	setmaxiqcache	task

メモ: オンラインコマンド構文では、<> は必須パラメータを、[] はオプションのパラメータを示します。

arccconf atapassword

SATA ドライブの Secure Erase (完全消去) のパスワードを設定または消去します。Secure Erase の詳細については、[28 ページの arccconf task](#) を参照してください。

構文

```
ARCCONF ATAPASSWORD <Controller#> SET <new password> <Channel# ID#> ...
ARCCONF ATAPASSWORD <Controller#> CLEAR <current password> <Channel# ID#> ...
```

パラメータ

new password|current password は、大文字小文字を識別するパスワードの文字列です。

Channel/ID は、パスワードを設定またはクリア使用とする各ドライブ上のチャンネル番号とデバイス番号 (ID) の組み合わせをスペースで区切って一覧表示します。

例

```
ARCCONF ATAPASSWORD 1 SET uR8ryx 0 1
ARCCONF ATAPASSWORD 1 CLEAR uR8ryx 0 1
```

arccconf copyback

再構築後にドライブをもとのスロット順に保持しようとするコピーバック機能を、有効または無効にします。

構文

```
ARCCONF COPYBACK <Controller#> <ON|OFF>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。On はコピーバック機能を有効にします。

Off はコピーバック機能を無効にします。

例

```
ARCCONF COPYBACK 1 ON
```

arccnf create

新しい論理ドライブまたはJBODを作成します。物理デバイスのチャンネルとデバイスIDを指定する必要があります。

冗長論理ドライブでは、ARCCONFが自動同期を実行します。

ARCCONFは、JBODを論理ドライブではなく物理デバイスとして表示します。

構文

```
ARCCONF CREATE <Controller#> LOGICALDRIVE [Options] <Size> <RAID#> <CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] ... [noprompt]
```

```
ARCCONF CREATE <Controller#> LOGICALDRIVE RVOLUME <LD#> <LD#> [LD#] ... [noprompt]
```

```
ARCCONF CREATE <Controller#> JBOD <CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] ... [noprompt]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

Logicaldrive は、以下のオプションで、論理ドライブのストライプサイズを示します。

- Stripesize <STRIPE>— 論理ドライブに構築するストライプサイズを指定します。ストライプサイズを指定するオプションのパラメータです。STRIPEは、キロバイトで指定します。16、32、64、128、256、512、1024がサポートされています。初期値は256KBです。
- Legs <LEG>— レッグの数を指定するオプションのパラメータです。値は整数です。
- LEG—RAID レベル50または60のレッグ数です。
 - RAID 50—2～16 レッグ、3～32 ドライブ/レッグ、最大128 ドライブ
 - RAID 60—2～16 レッグ、4～6 ドライブ/レッグ、最大128 ドライブ
- Name <NAME>— ユーティリティに表示される論理デバイスのエリアス名を特定するオプションのパラメータです。値は16文字までの文字列です。
- Priority <PRIORITY>— 作成される論理ドライブの初期化の優先度。有効なオプションは、HIGH、MED、LOWのいずれかです。
- Method<METHOD>— 論理ドライブの初期化の方法。有効なオプションには、BUILD、CLEAR、QUICK、SKIPが含まれます。
- Rcache— 論理ドライブのリードキャッシュを設定するパラメータです。
 - RON— リードキャッシュがオン
 - ROFF— リードキャッシュがオフ
- Wcache— 論理ドライブのライトキャッシュを設定するパラメータです。
 - WT— ライトスルー無効

- WB— ライトバック有効
- WBB—(バッテリで保護されている時) ライトバックが有効
- MaxIQcache— 論理ドライブの MaxIQ キャッシュを設定するパラメータです。
 - ION—MaxIQ キャッシュオン
 - IOFF—MaxIQ キャッシュオフ

Size は、論理ドライブのサイズをメガバイトで示します。MAX を使用してサイズを利用可能なスペースに設定することもできます。

RAID# は、新しい論理ドライブの RAID レベルです。0, 1, 1E, 5, 5EE, 6, 10, 50, 60 及びボリュームがサポートされます。

Channel# Drive# は、論理ドライブに追加する各デバイスのチャンネル番号とデバイス番号の組み合わせをスペースで区切って一覧表示します。

Rvolume は、RAID ボリューム論理ドライブの RAID レベルです。

LD# は、RAID ボリュームに接続された 2 つ以上の論理ドライブの論理ドライブ番号です。

noprompt: 確認のプロンプトなし

例

```
ARCCONF CREATE 1 LOGICALDRIVE STRIPESIZE 64 MAX 0 1 0 2 0 3 2 NOPROMPT
ARCCONF CREATE 1 JBOD 0 1 NOPROMPT
```

arccnf datascrub

コントローラのバックグラウンド一貫性チェックをトグル切り替えをします。

構文

```
ARCCONF DATASCRUB <Controller#> <on|off|period <DAYS>> [noprompt]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

On は、バックグラウンド一貫性チェックをオンにします。

Off は、バックグラウンド一貫性チェックをオフにします。

Period <DAYS> がバックグラウンド一貫性チェックを完了する日数を指定します。最小の値が 10 日 (速い) で、最大が 365 日 (遅い) です。期間を自動的に設定すると、バックグラウンド一貫性チェックは自動的にオンになります。

Noprompt は確認を出さないオプションパラメータです。

例

```
ARCCONF DATASCRUB 1 PERIOD 30
ARCCONF DATASCRUB 1 OFF
```

arccnf delete

論理ドライブまたは JBOD を削除します。論理ドライブまたは JBOD 上の全データが失われます。スパンドライブは、この機能では削除されません。

構文

```
ARCCONF DELETE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <LD#> <LD#> [noprompt]
ARCCONF DELETE <Controller#> JBOD <CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] ...
[noprompt]
ARCCONF DELETE <Controller#> LOGICALDRIVE|JBOD ALL [noprompt]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive# は、削除される論理ドライブの番号です。

LogicalDrive|JBOD ALL は論理ドライブまたは JBOD 上のすべてのドライブを削除します。

Noprompt は警告メッセージを出さないオプションパラメータです。

例

```
ARCCONF DELETE 1 LOGICALDRIVE 1 2 3
ARCCONF DELETE 1 JBOD ALL
```

arccnf driverupdate

Windows のデバイスドライバをアップデートします。ディレクトリ名を入力すると、ドライバを与えられたディレクトリ内で見つかったバージョンにアップデートしようとしています。

メモ: このコマンドは、Windows システム内でのみ利用可能です。

構文

```
ARCCONF DRIVERUPDATE <DirName>
```

パラメータ

Driverupdate <DirName> は、アップデートしたいドライバが含まれるディレクトリのパスです。

例

```
ARCCONF DRIVERUPDATE C:\WINDOWSALL
```

arccnf failover

自動フェイルオーバーをオンまたはオフに変更します。

構文

```
ARCCONF FAILOVER <Controller#> <on|off>
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

On は、コントローラのフェールオーバーモードをオンにします。

Off は、コントローラのフェールオーバーモードをオフにします。

例

```
ARCCONF FAILOVER 1 ON
```

arccnf getconfig

コントローラ、論理ドライブ、物理デバイスに関する情報が一覧表示されます。情報には以下の項目を含めることができます(他の項目も可能です)。

- コントローラタイプ
- BIOS、ブートブロック、デバイスドライバ、ファームウェアバージョン
- 論理ドライブのステータス、RAID レベル、サイズ
- MaxIQ キャッシュステータス(有効/無効)、キャッシュポリシー(low、medium、high)、リード/ライトバランス
- デバイスタイプ、デバイスID、PFAの有無、SSDステータス(SSDかそうでないか、MaxIQプールの一部か、MaxIQプール互換か)
- 物理デバイスの状態
- MaxIQに割り当てられたSSD(ソリッドステートドライブ)の数、MaxIQプールに割り当て可能なSSDの最大数
- エンクロージャ情報、ファン、電源、温度ステータス

構文

```
ARCCONF CONFIG <Controller#> [AD|LD [LD#]|PD|AL]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

AD/LD/PD/AL オプションには、以下のものがあります。

- AD— アダプタ情報のみ
- LD— 論理ドライブ情報のみ
- PD— 物理デバイス情報のみ
- AL— すべての情報(オプション)

例

```
ARCCONF GETCONFIG 1 AD
```


arccnf getlogs

下記を含む、コントローラの状態、イベントログ、使用統計へのアクセスを提供

- DEVICE— コントローラで発生したデバイスエラーのログ
- DEAD— 機能停止したデバイスが発生した記録のログ
- EVENT— 発生した特定のイベントのログ (rebuild や LDM 等)
- SATS— コントローラの使用統計のログ

構文

```
ARCCONF GETLOGS <Controller#> <Type> [clear|tabular]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Type は以下のいずれかです。

- DEVICE
- DEAD
- EVENT
- STATS

Clear は特定のログをクリアします。

メモ: このオプションは、DEVICE、DEAD、EVENT ログタイプでのみ有効です。

Tabular はログまたは統計を表形式で表示します。

例

```
ARCCONF GETLOGS 1 DEVICE
```

```
ARCCONF GETLOGS 1 STATS Tabular
```

arccnf getsmartstats

コントローラ上のハードドライブや SSD (ソリッドステートドライブ) の SMAT 統計を表示します。

メモ: SMAR 統計について手の詳細は、*Adaptec Storage Manager ユーザズガイド*を参照して下さい。

構文

```
ARCCONF GETSMARTSTATS <Controller#> [Tabular]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Tabular は出力を表形式で生成します。

例

```
ARCCONF GETSMARTSTATS 1
```

```
ARCCONF GETSMARTSTATS 1 TABULAR
```

arccnf getstatus

GETSTATUS 機能を使用すると、現在実行中のバックグラウンド コマンドの情報が表示されます。最新の再構築、同期、論理ドライブのマイグレーション、圧縮 / 展開に関する情報が含まれます。この情報には、操作のタイプ、ステータス、論理ドライブ番号、論理ドライブ サイズ、処理の進捗率などが含まれます。

メモ :

- 1 GETSTATUS では、ARCCONF コマンドと Adaptec Storage Manager からのコマンド両方の現在アクティブな操作についてレポートされます。
- 2 GETSTATUS は、物理ドライブ上のベリファイ、クリア、初期化、完全消去の作業についてレポートします。
- 3 GETSTATUS は、アクティブな作業のみをレポートします。作業が完了すると情報を表示しません。

構文

```
ARCCONF GETSTATUS <Controller#>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

例

```
ARCCONF GETSTATUS 1
```

arccnf getversion

BIOS、ドライバ、現在稼働中のファームウェア、再起動後のファームウェアの情報を含む、コントローラまたは、コントローラのソフトウェアコンポーネントのバージョン情報を一覧表示します。

メモ : 再起動後に実行するファームウェアのバージョンは、「ステージ」ファームウェアと呼ばれます。

構文

```
ARCCONF GETVERSION (すべてのコントローラの情報にこれを使用します)
```

```
ARCCONF GETVERSION <Controller#> (特定のコントローラの情報にはこれを使用します。)
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

例

```
ARCCONF GETVERSION
```

arccnf identify

LED を点滅させて、物理または論理デバイスを識別します。

構文

```
ARCCONF IDENTIFY <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#>
```

```
ARCCONF IDENTIFY <Controller#> DEVICE <Channel#> <ID>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive# は、識別する論理ドライブの番号です。

Channel# は識別するデバイスのチャンネル番号です。

Device# は識別するデバイスのデバイス番号です。

例

```
ARCCONF IDENTIFY 1 DEVICE 0 0
```

```
ARCCONF IDENTIFY 1 ALL
```

arccnf imageupdate

新しいファームウェアをハードドライブにフラッシュすることを可能にします。

構文

```
ARCCONF IMAGEUPDATE <Controller#> DEVICE <Channel# ID# ChunkSize# Filename>
```

```
[Mode#] [noprompt]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

Channel# はアップデートするデバイスのチャンネル番号です。

ID# はアップデートするデバイスのデバイス番号です。

ChunkSize# は、ファームウェアをアップデートするのに使用するチャンクのバイトサイズです。

メモ: SATA ドライブでは、チャンクサイズは、512 の倍数である必要があります。

Filename は、ファームウェアアップデートファイルの名前です。

Mode# は、ファームウェアアップデートモードです。有効な値は:

- 3-(SATA) 差分付きのダウンロードで、イメージを今及び将来の使用のために保存する。
- 7-(SAS) 差分付きマイクロコードのダウンロード、保存、有効化

Noprompt は警告メッセージを出さないオプションパラメータです。

例

```
ARCCONF IMAGEUPDATE 1 DEVICE 0 83 16384 ados.lod 3
```

arccnf key

アダプテックコントローラ上に機能キーをロードします。

構文

```
ARCCONF KEY <Controller#> SET <Key#>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

Key# がアダプテックが提供するキー番号です。

例

```
ARCCONF KEY 1 SET ABCD EFGH IJKL MNOP QRST UVWX
```

arccnf modify

論理デバイスがある RAID レベルから別のレベルに変化します (RAID レベルマイグレーション)。論理デバイスが元の容量から大きな容量に拡張します。(オンライン容量拡張) ミラーのセットを作るのにも使用できます。

構文

```
MODIFY <Controller#> FROM <LogicalDrive#>
```

```
TO [Options] <Size> <RAID#> <CHANNEL# DRIVE#> [CHANNEL# DRIVE#] [noprompt]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

FROM は、変更が始まる論理ドライブ

LogicalDrive# は論理ドライブ番号、

TO は変更先を指します。

オプション:

- ストライプサイズ — ストライプサイズを KB で表示します。オプションは、32、64、128、256、512、1024 で、初期値は 256KB です。
- init_priority — 変更のプライオリティレベルです。オプションは、low、med、high です。
- Legs — は、RAID レベル 50、RAID レベル 60 のアレイのサブアレイの数です。可能な値は、2-16 legs、3-16 drives/leg (最大でから 48 ドライブ) です。

size には以下のいずれかの値を指定します。

- MAX は利用可能なディスク上のすべての空き容量を使用します。
- 任意のサイズ (MB)。

RAID# は、論理ドライブ (0、1、5、5EE、10 の RAID レベル) です。

メモ: CHANNEL# と ID# パラメータは、ターゲットの変更先を含むデバイスのリストです。Channel と Device_ID は、繰り返されるパラメータです。

Channel# はデバイスのチャンネル番号です。

ID# はデバイスの device_ID(デバイス番号) です。

NOPROMPT はユーザプロンプトを無効にするオプションのパラメータです。

例

```
ARCCONF MODIFY 1 FROM 2 TO 2048 0 0 123 0 124 0 117
```

arccnf rescan

コントローラで、Ready 状態のディスク ドライブの取り出しと新しいディスク ドライブのコントローラへの接続をチェックします。再スキャンを完了すると、コマンドが返ります。

構文

```
ARCCONF RESCAN <Controller#>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

例

```
ARCCONF RESCAN 1
```

arccnf resetstatisticscounters

コントローラの統計カウンターをリセットします。このコマンドを使用して、カウンタをクリアし、新しい統計を作成します。

構文

```
ARCCONF RESETSTATISTICSCOUNTERS <Controller#>
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

例

```
ARCCONF RESETSTATISTICSCOUNTERS 1
```

arccnf romupdate

新しいファームウェアと BIOS をコントローラにフラッシュすることができます。新しいファームウェアを有効にするには、再起動が必要となります。

メモ:

- 1 この機能は、Windows と Linux でのみサポートされます。
- 2 BIOS/Firmware アップデートディスクレットではなく、CD から *.UFI のアップデートファイルをコピーしたかを確認して下さい。

構文

```
ARCCONF ROMUPDATE <Controller#> <BaseName>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

BaseName は、ROM イメージのベースネームか、コントローラ ROM イメージ一式を持っている場合のフルパス名です。

メモ : すべての UFI ファイルは、ARCCONF を実行する前に同じディレクトリにある必要があります。フロッピーイメージから UFI ファイルをコピーする場合、すべてのイメージをチェックして下さい。

例

```
ARCCONF ROMUPDATE 1 AC2200
ARCCONF ROMUPDATE 1 AC220001.UFI
```

arccnf savesupportarchive

Adaptec カスタマサポートがお使いのシステムの問題を診断するのに役立つ構成とステータス情報を保存します。保存される含まれる情報は (限定されませんが)、デバイスログ、ドライブログ、イベントログ、エラーログ、コントローラログ、SSD SMART 統計情報です。(SMART の詳細については、[17 ページの arccnf getsmartstats](#) を参照してください。)

ログファイルは、お使いのオペレーティングシステムの標準ログディレクトリ (Linux では、/var/log、Windows では ASM のインストールディレクトリ等)。内の Support フォルダに保存されます。

メモ : Adaptec Storage Manager の Save Support Archive 機能とは異なり、このコマンドは、Zip (「Archive」) ファイルを作成しません。単に、Support フォルダ内にサポートファイルとログを保存するだけです。

構文

```
ARCCONF SAVESUPPORTARCHIVE
```

パラメータ

なし

例

```
ARCCONF SAVESUPPORTARCHIVE
```

arccnf setalarm

ある場合、コントローラの音声アラームの状態を設定します。

構文

```
ARCCONF SETALARM <Controller#> <on|off|silence|test>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

On はアラームを有効にします。

Off はアラームを無効にします。

Silence は、現在なっている音声アラームを停止します。

Test はアラームを開始します。

例

```
ARCCONF SETALARM 1 TEST
ARCCONF SETALARM 1 SILENCE
```

arccnf setcache

論理ドライブのキャッシュモードを変更します。

構文

```
ARCCONF SETCACHE <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <logical mode>
[noprompt]
ARCCONF SETCACHE <Controller#> DEVICE <Channel> <ID> <physical mode>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive# は、キャッシュを変更する論理ドライブの番号です。

論理ドライブのキャッシュモードは:

- RON— リードキャッシュがオン
- ROFF— リードキャッシュがオフ
- WT— ライトスルー無効
- WB— ライトバック有効
- WBB—(バッテリで保護されている時) ライトバックが有効

Channel/ID は、論理ドライブに追加する各デバイスのチャンネル番号とデバイス番号の組み合わせをスペースで区切って一覧表示します。

物理ドライブのキャッシュモードは:

- WT— ライトスルー無効
- WB— ライトバック有効

例

```
ARCCONF SETCACHE LOGICALDRIVE 1 RON
ARCCONF SETCACHE DEVICE 0 0 WB
```

arccnf setconfig

コントローラの設定をリセットします。論理ドライブが削除され、ハードディスクはレディ状態にリセットされ、コントローラの全ての設定がデフォルトになります。

構文

```
ARCCONF SETCONFIG <Controller#> DEFAULT [noprompt]
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

Default はコントローラの初期設定を復元します。

noprompt: 確認のプロンプトなし

例

```
ARCCONF SETCONFIG 1 DEFAULT
```

arcconf setmaxiqcache

論理ドライブの MaxIQ キャッシングを有効/無効にし、SSD (ソリッドステートドライブ) を MaxIQ プールに追加し、MaxIQ プールから SSD を削除し、MaxIQ リード/ライトバランス及びフェッチレートを設定します。

メモ: MaxIQ キャッシュを有効にする前に、少なくとも SSD を 1 台、MaxIQ プールに割り当てる必要があります。さらに、リードキャッシュも有効にする必要があります。(23 ページ参照)

構文

```
ARCCONF SETMAXIQCACHE <Controller#> ENABLE|DISABLE <LogicalDrive#>
ARCCONF SETMAXIQCACHE <Controller#> ADDTOPOOL|REMOVEFROMPOOL <Channel# Device#>
ARCCONF SETMAXIQCACHE <Controller#> RWBALANCE <Read#> <Write#>
ARCCONF SETMAXIQCACHE <Controller#> FETCHRATE <Rate#>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive# は論理ドライブの番号

Channel# は SSD のチャンネル番号

device # は SSD のデバイス番号

Read#/Write# は、SSD の無効にするリード/ライトのレートです。レートに達すると、ページがキャッシュから削除されます。有効な値は、各パラメータ毎に 1 ~ 10 です。

Rate# は、1(低い) から 1000(高い) までのキャッシュフェッチレートです。初期値は 100 です。

例

```
ARCCONF SETMAXIQCACHE 1 ENABLE 1
ARCCONF SETMAXIQCACHE 1 ADDTOPOOL 0 1
ARCCONF SETMAXIQCACHE 1 REMOVEFROMPOOL 0 1 0 2
ARCCONF SETMAXIQCACHE 1 RWBALANCE 4 1
ARCCONF SETMAXIQCACHE 1 FETCHRATE 200
```


arccnf setname

論理ドライブの名前を変更します。

構文

```
ARCCONF SETNAME <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <New Name>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive# は、名前を変更する論理ドライブの番号です。

New Name は論理ドライブの新しい名前です。

例

```
ARCCONF SETNAME 1 LOGICALDRIVE 1 BACKUP_A
```

arccnf setncq

コントローラの NCQ ネイティブコマンドキューイングを有効または無効に変更します。この設定は、コントローラ上の SATA ディスクドライブに影響します。SATA ドライブが再起動したときに有効になります。

構文

```
ARCCONF SETNCQ <Controller#> ENABLE|DISABLE
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

例

```
ARCCONF SETNCQ 1 ENABLE
```

arccnf setperform

アプリケーションによってコントローラの設定を変更します。

構文

```
ARCCONF SETPERFORM <Controller#> <Performance Mode>
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Performance Mode は、1(DYNAMIC / 初期値) または 2(OLTP/ データベース) です。

例

```
ARCCONF SETPERFORM 1 2
```

arccnf setpower

コントローラや論理ドライブ上のディスクドライブのパワーマネージメント設定を変更します。

構文

```
ARCCONF SETPOWER <Controller#> Stayawake DISABLE|<starttime> <endtime>
ARCCONF SETPOWER <Controller#> Spinup <internal#> <external#>
ARCCONF SETPOWER <Controller#> LD <LogicalDrive#> DISABLE|[SLOWDOWN <st#>]
[POWEROFF <pt#>] [VERIFY <vt#>]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Stayawake は、コントローラ上のディスクドライブのステイアウェイク期間を設定します。ステイアウェイク期間内は、ディスクドライブは常に最高のスピンドールで動作します。

Disable は、コントローラ上のディスクドライブのステイアウェイク期間を無効にするキーワードです。

starttime は、ステイアウェイク期間の開始を、HHMM (24 時間形式) で指定します。

endtime は、ステイアウェイク期間の終了を、HHMM (24 時間形式) で指定します。

コントローラにスピンドールアップの制限 — コントローラが同時にスピンドールアップ可する最大の数を設定することも可能です。

internal# は、コントローラが一度にスピンドールアップする内部ドライブの最大数で、0-20 です。

External# は、コントローラが一度にスピンドールアップする外部ドライブ (JBOD 内のドライブのような) の最大数で、0-20 です。

LogicalDrive# は論理ドライブ番号です。

Slowdown st# はディスクドライブのスローダウンタイマーを分で設定します。有効な値は、0 (しない)、3, 5, 10, 20, 30, 60, 120, 180 です。

Poweroff pt# はディスクドライブのパワーオフタイマーを分で設定します。有効な値は、0 (しない)、3, 5, 10, 20, 30, 60, 120, 180 です。

Verify vt# は、不活動期間を時間で設定し、その後不活動ドライブ (既にパワーダウンしたドライブ) が動作したかを確認するために再起動します。チェックが完了すると、ドライブの電源が落ち、非アクティブ状態に戻ります。有効な値は、0 (しない)、1, 2, 3, 8, 12, 24 です。

メモ: スローダウン、パワーオフ、ベリファイタイマーでは、st# は pt# より少なく、pt# は vt# より少ない必要があります。1 つまたは複数のタイマーを、好きな順番で、一つのコマンドで設定することができます。ベリファイタイマー、vt# は、時間で指定しているのに対し、他の二つのタイマーは分で指定していることに注意して下さい。

例

```
ARCCONF SETPOWER 1 STAYAWAKE DISABLE
ARCCONF SETPOWER 1 SPINUP 4 4
```

```
ARCCONF SETPOWER 1 LD 2 POWEROFF 60
```

```
ARCCONF SETPOWER 1 LD 2 SLOWDOWN 20 POWEROFF 60 VERIFY 12
```

arccnf setpriority

タスクの実行プライオリティまたは、コントローラのグローバルバックグラウンドタスクの優先度を変更します。

構文

```
ARCCONF SETPRIORITY <Controller#> [TASK ID] <New Priority> [current]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Task ID は、変更するタスクの番号です。タスク ID を入手するには、[arccnf getstatus](#) を使用します。コントローラのグローバルバックグラウンドタスクプライオリティ、つまりコントローラ上のすべてのタスクの実行プライオリティを設定するときはこのパラメータを省略します。

New Priority は、LOW、MEDIUM、HIGH です。

Current (キーワード) は、グローバルタスクプライオリティを実行しているタスクに適用します。初期値では、グローバルプライオリティ変更は、実行中のタスクには適用されません。

例

```
ARCCONF SETPRIORITY 1 <task_id> HIGH
```

```
ARCCONF SETPRIORITY 1 LOW CURRENT
```

arccnf setstate

物理デバイスや論理デバイスの状態を、現在の状態から目的の状態に変更します。

構文

```
ARCCONF SETSTATE <Controller#> DEVICE <Channel#> <Device#> <State> [LOGICALDRIVE <LD#>[LD#] ... ] [noprompt]
```

```
ARCCONF SETSTATE <Controller#> LOGICALDRIVE <LD#> OPTIMAL [ADVANCED <option>] [noprompt]
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Channel# はドライブのチャンネル番号です。

Drive# は、デバイスのデバイス番号です。

LD# は論理ドライブ番号です。

State:

- HSP— レディドライブからホットスペアを作成します
- RDY— ホットスペアの指定を削除します。

- DDD— ドライブを強制オフライン(故障に)します

ADVANCED <option> はオプションのキーワード/オプションの組み合わせです。オプションを Nocheck に設定して、整合性チェックを実行せずに、論理ドライブを Optimal (正常) の状態にします。

noprompt: 確認のプロンプトなし

例

```
ARCCONF SETSTATE 1 DEVICE 0 0 HSP LOGICALDRIVE 1 2 3
ARCCONF SETSTATE 1 DEVICE 0 0 RDY LOGICALDRIVE 2
ARCCONF SETSTATE 1 LOGICALDRIVE 1 OPTIMAL ADVANCED nocheck
```

arccnf setstatsdatacollection

コントローラの統計情報収集を有効または無効にします。統計を表示するには、`arccnf getlogs` コマンドを使用します。(17 ページ参照)

構文

```
ARCCONF SETSTATSDATACOLLECTION <Controller#> Enable|Disable
```

パラメータ

Controller# は、コントローラ番号です。

Enable は統計情報収集をオンに変更します。

Disable は統計情報収集をオフにします。

例

```
ARCCONF SETSTATSDATACOLLECTION 1 ENABLE
```

arccnf task

論理ドライブまたは物理ドライブのタスクを実行します。

構文

```
ARCCONF TASK
TASK START <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#> <options> [noprompt]
TASK STOP <Controller#> LOGICALDRIVE <LogicalDrive#>
TASK START <Controller#> DEVICE <Channel> <ID> <options> [noprompt]
TASK STOP <Controller#> DEVICE <Channel> <ID>
```

パラメータ

Controller# はコントローラ番号です。

LogicalDrive# は、タスクを実行する論理ドライブの番号です。

- 論理ドライブのオプション：
 - verify_fix (Verify with Fix)— 論理ドライブの冗長性をチェックし、バッドデータが見つかったときには修復します。

- `verify`— はバッドデータの修正せずに、論理ドライブの冗長性をチェックします。
- `cleara`— ドライブ上のすべてのデータを削除します。
- Physical device オプション:
 - `verify_fix`— ディスクメディアをチェックし、バッドデータが見つかったときは修復します。
 - `verify`— バッドデータの修復をせずにディスクメディアをチェックします。
 - `cleara`— ドライブ上のすべてのデータを削除します。
 - `initialize`— ドライブをレディ状態に戻します。(メタデータを削除します)
 - `secureerase [password]`— 削除されたデータのあらゆる復旧を不可能にする安全な方法でドライブからすべてのデータを削除します。パスワードの設定に関するの詳細については、[12 ページの `arcconf atapassword`](#) を参照してください。

例

```
ARCCONF TASK START 1 LOGICALDRIVE 1 VERIFY
```

```
ARCCONF TASK START 1 DEVICE 0 0 INITIALIZE
```



Adaptec, Inc.
691 South Milpitas Boulevard
Milpitas, CA 95035 USA

©2010 Adaptec, Inc.
All rights reserved. Adaptec and the Adaptec logo are
trademarks of Adaptec, Inc. which may be
registered in some jurisdictions.

Part Number: CDP-00253-02JA-A, Rev A
EU 04/10